

教育のための世界先住民族会議（World Indigenous Peoples Conference on Education: WIPCE）に関する基本的情報

文責：ジェフ ゲーマン

2009.5.29

キーワード：教育における自己決定、持続可能、先住民族教育の一元化、生涯教育、異なる知識体系

先住民族の教育権に関するクーランガッタ宣言は、先住民族のための教育を改革変容するのに重要と考えられる根本的な理念を指示する世界中の先住民族の共通の声を代表している。

このような宣言の必要性は自明のものである。ここ三十年を渡って世界中の先住民族は、彼・彼女らは非先住民主導の教育制度の下で公正な待遇を拒まれた、そして非先住民主導の教育制度は学術的かつ文化的に人を育成するサービスを提供することに失敗している、と議論してきている。

ほとんど全ての先住民族、とりわけ植民地支配の衝撃と影響を被った先住民族は、先住民族であるという権利を承認、尊重、推進する教育を手取ることに運動してきたのである。(序文)

歴史的に、先住民族が教育を享受する権利を主張してきた。例外なく、この教育の本質、よってその結果も非先住民族的な基準、価値観と哲学によってつくられ、測られてきた。結局のところ、この教育の目的は先住民を非先住民の文化と社会に同化させることにあった (1.3)。

多くの国際法規は、先住民族にとって最も根本的な人権である、「先住民族である」という権利を限定的にしか承認していないことは1999 WIPCEにとって危惧である。先住民族であるという権利は先住民族自身が誰が先住民である、先住民であるとはどのような意味を持つ、そして教育が先住民族の文化とどのように係わるかについて決める自由を必然的に含みます (1.4)。

— 「教育における先住民族の権利に関するクーランガッタ宣言」

● 出発点：

世界中の先住民族に一ヶ所に集まっていただき、先住民族の教育に関する課題を議論することを目的に、ヴァーナ・カークネス女史（ブリティッシュコロンビア大学名誉教授）が最初の WIPCE を創始した

● 開催地及び参加人数：

2011	クズコ	ペルー		
2008	メルボルン	オーストラリア	23ヶ国	3000人強
2005	ハミルトン	アオテアロア		3000人
2002	ストーニーパーク アルバータ	カナダ		2500人
1999	ヒロ	ハワイ		5000人強
1996	サンタフェ ニューメキシコ	米国		1200人
1993	ウーロンゴング	オーストラリア		6000人
1990	トランガワエワエ	アオテアロア		4000人
1987	ノースバンクパーブリティッシュコロンビア	カナダ	17カ国	1500人

◆ 会議目標（2002年 WIPCE ミッション・ステートメントより）

- ◆ 先住民族特有の文化を承認、尊重、誇りにすることを通して文化と伝統を祝う[先住民族の文化を認め、祝い、敬意を示すことにより自己をエンパワー]（開会・閉会式、夜の文化プログラム、ワークショップ）
- ◆ それぞれの先住民族が直面している教育的課題に関する継続的なダイアログと運動実践を引き継ぐ場の提供[先住民族が抱える教育的課題の共有、解決に向けた共同作業]
- ◆ 会議参加者が能動的に参加できる体験的な学びを促進する（古老の教えをワークショップやアクティビティに組み込むことによりそれらの教訓を体感的に生き、承認、敬意する）
- ◆ 先住民族が自分らの生活を自律し、植民地化された影響を脱するという今までの WIPCE が積み上げてきたレガシーを継続し強化する（1999年 WIPCE に承認されたクーランガッタ宣言に掲げられた権利をどのように実施しているかについての発表は奨励される）
- ◆ 自己実現をするために必要不可欠な、文化的実行のための状況提供が承知の上の責任である（よって、この会議を開催するにあたり、各自がもつ固有の才能や相互関係性についての自覚が高まり更なる一体感と共同作業につながり運命を果たせることが可能になる）
- ◆ 既に発展しつつあるネットワーキングを更に強化する

● 特徴：

- ◆ 主旨：3年に一度、先住民族による、先住民族のための、先住民族の教育に関する国際会議
- ◆ ベースとなる運動的側面：先住民族の教育における自己決定を促進するための継続的な基準作成とそれを行行使するに伴う高等な実践的研究
- ◆ 開催に当たって先住民族特有の文化と伝統を尊重し、祝う
- ◆ 参加者が能動的に参加し体感的に経験できる古老の知恵を盛り込んだ学習プログラム
- ◆ 会議の対象の教育実践におけるホーリズム（総括性、応用性）：
 - 主流社会の知識体系と異なる、先住民族の世界観、認知論を期にした知識体系を維持継承する教育の促進
 - 「生まれから死まで」の先住民族個人の教育的ニーズを促進する先住民生涯教育（就

学前教育から高等教育、職業訓練教育まで)

- 経済・社会的ニーズを視野に入れた教育の一元化（健康衛生、法務、住宅、福利、雇用分野との連携を踏まえた教育実践）
- 教育におけるコミュニティ参加、参画（子ども、地域住民、古老）

● **成果：**

- ◆ 1999年に採択された「教育における先住民族の権利に関するクーランガッタ宣言」（別資料参照）
- ◆ 2002年に結成された「世界先住民族ネーション高等教育協会」（World Indigenous Nations Higher Education Consortium：WINHEC）（文末参照）
- ◆ （先住民族教育者のネットワーキング、共力作用）

● **今後の課題：**

クーランガッタ宣言を期になった先住民族教育に関する諸ガイドラインの実施、行使およびそれに伴う接合

● **今までの会議テーマ：**

- WIPCE 2008: 「21世紀における先住民族の教育：伝統を尊重し、未来を形付ける」
WIPCE 2005: 「テトイロア：先住民卓越性」
WIPCE 1987~2002: 「答えは我々の中にある」

● **2008年第8回会議参加国：**

アメリカ、カナダ、オーストラリア、アオテアロア（ニュージーランド）、南アフリカ共和国、アンゴラ、ボツワナ、ナミビア、チリ、スリナム、ベリズ、スウェーデン、ノルウェー、パキスタン、インド、フィリピン、フィジー、台湾、日本

● **2008年第8回会議サブテーマ：**

■ **初日（12月8日月曜日）「伝統の尊重」**

「教育を通して伝統を成長、つながり、祝い、維持する」

「歴史の構築」

「知識の道々」

「言語とアイデンティティ」

■ **二日目（12月9日火曜日）「対立的な知識体系を生き抜くには」**

「教育の定義」

「教育と文化のインパクト」

「今日の教育制度・教育組織の文化を理解する」

「知識体系の探検」

■ 三日目（12月10日水曜日）「将来への課題」

「自らの未来を形付ける」

「教育制度の中で繁栄する」

「共同体とつながる」

「抵抗力」

● 今までの WIPCE の開催団体

2008 ビクトリア・アボリジニ教育協会/ラトロブ大学

2005 テ・ワナンガ・オ・アオテアロア/ワイカト大学

2002 ファーストネーション成人と高等教育協会（カナダアルバータ州）

1999 ネイティブ・ハワイアン教育協議会、特設ネイティブハワイアン実行委員会

1996 全国インディアン教育協会、合衆国側実行委員会

1993 ボップ・モーガン、特別実行委員会（ウーランゴング大学）

1990 テ・コハンガ・レオ ランゲージイマージョン プログラム

1987 ブリティッシュ・コロンビア大学/ネイティブ・インディアン教員養成プログラム

◆ 「世界先住民族ネーション高等教育協会」(World Indigenous Nations Higher Education Consortium : WINHEC)

高等教育機関は労働人口を育成訓練することのみならず世論形成を左右する上で多大なインパクトを持っており、社会変動の行方を制する上で極めて重要な機能をもつ。また、その高等教育機関や高等教育プログラムが存続するために認定機関による公認は極めて重要な要素である。よって、先住民族が高等教育における自己決定を促進するため、一般的な公認機関とは違った基準で自らの教育的取り組みを評定し公認する組織の創設は急務であった。2002年のWIPCEにおいて世界中の先住民族高等教育代表が集まり、カナスキス会議において世界先住民族高等教育協会を設立した。

この協会は「先住民族の生活の期になる共通の基準、慣行、原理を承認した、先住民族による教育取り組み及びシステムを公認するための組織創設」を含み、先住民族が持つ高等教育の共通目標を達成するための国際的なフォーラムとサポートシステムを提供するためにつくられた。